

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム 太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町字客山72-1 (電話) 0852-21-5227		
評価機関名	しまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年6月5日	評価確定日	平成20年6月26日

【情報提供票より】 (平成20年5月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋2階建て	造り
	2階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(5月10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	1名	要介護2	3名			
要介護3	1名	要介護4	2名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.5歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣の利用者が多く、家族やボランティアの出入りが多いホームである。運営推進会議には利用者全員が参加し、時に地域の方をお茶で接待している。管理者の「落ち着いて普通の生活ができる」の考えの下、利用者は朝食を自由に食べたり、携帯電話を使用したり、将棋の本を読んで力を挽回する等自分のペースで生活を楽しんでいる。自己評価制度等が導入され職員の学ぶ姿勢も強く、職員育成にも力が入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	①地域向けの広報紙の発行②認知症進行予防対策③ベッド柵使用の見直し等が改善課題であり、それぞれ改善に向けて継続検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で目を通し、記入されたものを管理者がまとめた。職員は自己評価票に目を通したり記入することで、日頃のケアの振り返りになったと意義をつかんでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者全員や多くの職員、支援センター職員、民生委員、駐在所等毎回23～26人が参加し、二ヶ月に一回開催している。職員育成の場としても位置づけられスタッフが司会し、利用者の自己紹介や諸行事等を検討し内容は運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の日常生活の様子や「認知症」の記事等を載せた家族たよりを職員が作成し配布している。近隣の利用者が多くいつでも面会もでき、家族とのコミュニケーションは良く取れており、気兼ねなく話せる関係となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や祭り等に参加している。コーラス等のボランティアの出入りも多く、月一回近くの幼稚園児が歌や遊戯を披露してくれる等、地域との交流は積極的である。地域向け広報紙の発行はこれからである。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念や行動理念が作成され、パンフレットや事業所内に明示されているが、グループホームとしての地域密着型サービスの独自の理念はこれからの課題となっている。	○	全職員で地域密着型サービスについて検討され、グループホーム独自の理念を作成されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回の法人全体会での理事長の話やカンファレンスの場等で理念を確認し合っている。名札の裏に書いた「理念」を携帯している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	コーラス等ボランティアの出入りも多く月一回近隣の幼稚園時の来訪もあり地域との交流に力が入れられているが、自治会には未加入である。広報紙の発行はこれからである。	○	さらに近隣住民との交流を発展させていくためにも、自治会への加入を勧めたい。認知症の啓発やホームを理解してもらうためにも、広報紙を配布して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で目を通し記入したものを管理者がまとめた。職員は自己評票に目を通すことで振り返りになったと意義をつかんでいる。ホーム独自の自己評価表も使用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者全員や多くの職員、民生委員、駐在所等23～26人が参加し、二ヶ月に一回開催している。スタッフが司会し利用者の自己紹介や諸行事、地域向け広報紙の発行等を検討し運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はグループホーム事業者連絡会に参加するだけでなく、市町村の担当者と抱えている悩み等を相談したり、市町村の考えを聞く等積極的に交流している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近隣の利用者が多く家族の訪問が頻回にあり、ホームでの様子や状態等報告している。家族たよりも発行しているが、現在見直し中である。受診ノートで情報を共有している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員も家族と気軽に話せ、定期的に話し合ったり、面会時に積極的に意見を聞いたりしながら運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族向けの太陽の里たよりで職員紹介したり、新しく採用した職員は利用者で紹介している。昨年度は離職や異動が多かった。	○	運営者や管理者は「馴染みの関係」の大切さを再確認し、利用者へのダメージを防ぐ配慮を望む。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画により職員の段階に応じた研修に参加し、伝達研修も実施している。プリセプター制の導入や運営推進会議での司会進行役を担う等、職員を育成する仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員はグループホーム事業者連絡会に出席し、交流や勉強会を行ないサービス向上に役立てているが、職員の同業者間の相互訪問は中断している。	○	職員間の交流や親睦、サービス向上を図るためにも、職員の同業者間の相互訪問の再開を望む。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くが併設のデイサービス利用者であり馴染みながらの開始となっている。体験入居の例はないが希望があれば受け入れる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理本等を見て献立を一緒に考えている。調理の仕方や味付けを学び料理ができるようになった職員もいる。餅つきや笹巻き等利用者から教わる場面を多く持つようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食は利用者の生活習慣を大切にし「マイ時間」となっている。洋服を買いたい、喫茶店に行きたい等、利用者の思いを聞き出し、それぞれの要望に沿って支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望、職員の意見、本人の思いを反映した介護計画が細かく作成されているが、日々実行されているケア内容がプランに上がっていないものがある。	○	利用者の生活暦や特技を引き出すようなケアプランや実際に行っているケアがプランにあがるよう、計画作成担当とスタッフとの確認の場を多く持って頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回モニタリングを行い見直している。利用者の状態が変化した場合は、都度関係者と話し合っ計画を変更し、家族に説明し同意をもらっている。	○	関係者と十分に話し合い、一ヶ月に一回見直しされるよう期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の健康管理を支援している。受診は家族同伴としているが緊急時や精神科受診等は職員で対応し、医師と十分な意思疎通を図るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診を受けたり、総合病院へ受診したりと利用者や家族の要望により対応している。受診ノートや連絡ノートを活用し医師との連携に役立てている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者も職員もホームを「終の棲家」にと考えている。家族の意向を聞いたり、医師と話し合ったり、看取り指針をもとに職員と検討したりと準備を進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	口の周りの汚れをさりげなく拭いたり、排泄時には周囲の人に配慮した声掛けをしたり、露出を最小限にする等配慮している。記録物やパソコン管理にも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食や入浴時間等本人の希望に沿って対応し、利用者のペースを大切にしている。家族の面会も自由であり、時間を気にせずゆったりと過ごせるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や味付け、盛り付け、茶碗拭き等、利用者の力を引き出しながら一緒にしている。利用者は職員と味付けや柔らかさ等の話をしながら楽しんで食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間や日曜日等希望に応じいつでも入浴できるが、現在のところ夜間に入る方はいない。入浴嫌いな方には、タイミングを見ながら職員の連携や工夫で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	笹巻きや干し柿作り、梅干作り、野菜作り、草取り等で力を発揮してもらった場面を作っている。利用者は新聞を読んだり将棋やパズルをしたりと趣味等を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に一緒に散歩したり、個々人の希望する所にいけるよう支援しているが十分といえない。一ヶ月に一回外食する等、外に出る機会を多くしている。	○	ハガキや手紙出し、かかりつけの理美容院に行く等、外に出て行く機会を増やして頂きたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は戸外にいつでも出られるよう開錠している。利用者の行動パターンを把握して対応したり、行動制限するような声掛けにならないよう注意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者全員が参加した消防署との防災訓練を実施した。福祉医療サービス事業所や地域との防災協定も締結し連絡会を行っている。法人で配食業者による備蓄品を確保している。	○	ホーム独自に3日分の備蓄品を確保されるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が把握され記録されている。利用者の状態により食事形態を変えたり好きな物を食べてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの利用者は食後畳で横になったり、あちこちの椅子に座る等して居間で過ごしている。月毎に利用者全員で作った季節のカレンダー等が飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや衣装ダンスが持ち込まれ、利用者が書かれた忘備録や日記帳、ハガキファイルや写真もあり、居心地の良い居室作りとなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。